

巻頭特別企画

楠瀬直木

(U-16日本女子代表監督)

「日本の女子サッカーを 強くするために」

TFA Pick Up

第25回全日本高校女子サッカー選手権大会

「十文字高校が全国制覇!」

日本女子フットサルリーグ2016プレ大会

「東京府中アスレティックFCプリメイラが参戦」

MATCH REPORT

第18回東京都クラブユースU-17選手権大会

第24回東京都クラブユースU-14選手権大会

第21回東京都クラブユースU-13選手権大会

第95回全国高校サッカー選手権大会

第40回全日本少年サッカー東京都大会

JFAレディース／ガールズサッカーフェスティバル 2016

UNION NEWS

連盟ニュース

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

孺恋鎌原立野メガソーラー発電所

【本事業における取得許認可】
経済産業省 設備認定通知
(25関エネ再設第2995号)
認定日 平成25年11月18日
発電出力 1,950kW (約600世帯相当)
林地開発行為許可
(群馬県指令吾環森第30268-4号)
許可日 平成26年8月12日
対象面積 3.2080ha
取得名義：株式会社スカイ・ランド
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町30-4 渋谷アジアマンション604
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661
<http://www.yuusui-no-mori.com/>

第25回全日本高校女子サッカー選手権大会 十文字高校が全国制覇!

2016年12月30日～17年1月8日に行われた「第25回全日本高校女子サッカー選手権大会」。十文字高校が初優勝を飾った。これまで3位が最高成績だった十文字高校だが、決勝戦では大商学園（大阪）との熱戦をキャプテン村上真帆のゴールで制した。



創部22年目で 初優勝を飾る

2016年12月30日～17年1月8日に行われた「第25回全日本高校女子サッカー選手権大会」。東京都の十文字高校が強豪揃いのトーナメントを勝ち上がって、高校日本一に輝いた。

創部22年目。最初はボール一つないどころか部員もいなかったため、中3のバスケットボール部員を仮入部させて9名からスタートしたサッカー部。ゼロから少しずつ積み上げて、ようやく勝ち取った優勝だった。

高校選手権にはこれまで11度出場したが、優勝には手が届かなかった。準決勝の壁に阻まれること4回。「今回も最大の壁は準決勝でした」と石山隆之監督は振り返る。同じ東京のライバルである修徳高校との準決勝は、1-1のままPK戦に。お互いに譲らず9人目までもつれ込みながら、決勝進出を果たした。

決勝戦の相手は大阪の大商学園高校。お互いに勝てば初優勝となる中で、試合を決めたのはキャプテンであり、エースナンバー10を背負うMF村上真帆選手だった。両チーム得点がないまま迎えた61分、ゴールまで30メートルほどの距離でパスを受けた村上選手は、ターンから左足を振り抜く。

「GKの選手が前に出てくるというのは試合前に監督からも言われていたので、狙い通りで

大会結果

1回戦	神戸弘陵学園(兵庫)	11-0
2回戦	日ノ本学園(兵庫)	3-0
準々決勝	広島文教女子大学附属	1-0
準決勝	修徳(東京)	1-1(PK9-8)
決勝	大商学園(大阪)	1-0

した」
村上選手が放ったロングシュートは、美しい放物線を描くと、相手GKの頭上を越えてゴールネットを揺らした。その後は大商学園の猛反撃を受けるが、全員で凌ぎ切ってタイムアップの瞬間を迎えた。

チャレンジリーグで 貴重な経験を積む

石山監督が、シビアナ試合を乗り切ることができた要因として挙げたのが、高校選手権の1ヵ月前に行われた2016プレナスなでしこリーグ・プレナスチャレンジリーグ入替戦だった。

2012年5月、十文字高校・中学校・大学を母体とした女子サッカークラブ「FC十文字」を設立。地域女子サッカークラブとしてFC十文字VENTUSを立ち上げた。同じクラブになる十文字高校の選手はFC十文字VENTUSに移籍手続きなしで出場できる。

FC十文字VENTUSは、4チーム総当たりでの予選大会、ホーム&アウェイ方式での入替戦を5試合こなした。そして、8チーム中2チームという狭き門を突破して、見事になでしこチャレンジリーグ参入を果たした。

「大人の駆け引き、セットプレーの守り方、ディフェンスの間合いなどは、高校生同士の試合ではなかなか得られない。一回りタフになっ



決勝戦で優勝をもたらす決勝ゴールを挙げた村上真帆選手



松本菜奈加選手は切れ味鋭いドリブルで攻撃陣を牽引した

FC十文字VENTUSが なでしこチャレンジリーグに参入

2016年11月12～20日、2016プレナスなでしこリーグ・プレナスチャレンジリーグ入替戦が行われ、FC十文字VENTUSがチャレンジリーグへの新規参入を果たした。ヴィクサーレ沖縄FCナビータ、セレッソ大阪堺ガールズ、ノジマステラ神奈川相模原ドゥエとの4チーム総当たりの予選大会では3連勝。ホーム&アウェイで行われたJAPANサッカーカレッジレディースとの入替戦は、1戦目3-2、2戦目3-2という打ち合いの末に勝利をつかんだ。2017プレナスチャレンジリーグは全12チームを東西(EAST、WEST)6チームずつに分け、3回戦総当たりリーグ戦(全15節)を行う(Fc十文字VENTUSはEAST)。

たと思います」

これまで何度も阻まれてきた壁を突破して、悲願の初優勝をつかんだ十文字高校。21年前、チームをゼロから立ち上げた石山監督は言う。

「私たちは突然強くなったわけではありませぬ。毎日毎日の積み重ねの結果、日本一になることができました。選手、コーチ、スタッフ、学園の皆様、後援会、地域の方々……。これまで十文字高校サッカー部に関わっていただいた、すべての人たちに感謝したいと思います」

楠瀬直木

(U-16 日本女子代表監督)

日本の女子サッカーを強くするために

昨年、ヨルダンで開催されたU-17女子ワールドカップで決勝進出を果たした「リトルなでしこ」ことU-17女子日本代表。

このチームを率いたのが、FC町田ゼルビアのアカデミーダイレクターで、東京ヴェルディでも育成組織に関わってきた楠瀬直木監督だ。

女子チームを任されたのは初めてだった「育成のスペシャリスト」は、どのように女子選手と向き合い、実力を引き出したのか。

女子サッカーは 男子化している

—楠瀬監督がU-16日本女子代表監督に就任したのは2015年でした。オファーを受けた時は、どんな心境でしたか？

楠瀬 率直な印象としては「どうして私なのだろう」というものでした。女子を専門に指導されている方がいらっしゃる中で、私はほとんど女子の指導に携わってこなかったわけですからね。私の場合は、男子、特に育成年代を長く見ていたので、その物差しはあったのですが、女子のほうは持っていませんでした。

—初めて女子チームを指導するということが戸惑いはありませんでしたか？

楠瀬 もちろん、ありました。監督就任から1週間後にアメリカ遠征があったのですが、最初は選手の名前と顔も一致しない、まさしく手探りの状態でした。おそらく、選手は私以上に距離を感じていたはずですよ。ヘタをすれば、彼女たちのお父さんよりも年上なわけですから。

—男子と女子ではアプローチを変えたところはあったのでしょうか？

楠瀬 いろいろなことを考えましたが、そこまで変えたわけではありません。というのは、世界の女子サッカーというのはほとんど男子化しているんですね。パワーやスピードといったフィジカル的な要素が強くなっている。アメリカ遠征ではアメリカに1-3で敗れたのですが、ここまでパワフルなのかと驚きました。テレビで見ると、もっと強烈でした。そこから日本が強豪国に勝つためには、何をすべきかが見えてきました。女子の16歳だと、だいたい男子の14歳と同じくらいなんです。そのぐらいに要求するプレーの強度や、テンポの速さなどは必要というのはわかっているのに、「もっと速く寄せられるんじゃないか」「実際のところでもっと激しく

行けるんじゃないか」と要求し続けました。

—女子選手の強みを感じたところはありますか？

楠瀬 たくさんありますよ。例えば、女子はチームとしてまとまった時はすごい力を発揮する。なでしこジャパンが11年にFIFA女子ワールドカップで優勝した時は、東日本大震災があつて、日本を元気にしたいというのが一つのモチベーションになった面があったと思うんです。男子にそれがなかったからではないかもしれませんが、個々の競争意識のほうが出ている印象です。もう一つ、強みだなと感じたのは「察する力」ですね。こちらが言ったことの奥にあるものまで察しようとしてくれる。だからグループ戦術のトレーニングをやっても、飲み込むのが驚くほど早いです。これは確実に日本の強みだと思いますね。

—U-16日本女子代表は15年に中国で開催されたAFC U-16女子選手権に出場して準優勝。FIFA U-17ワールドカップの出場権を獲得しました。

楠瀬 決勝戦では朝鮮民主主義人民共和国に0-1で敗れたのですが、相手とはスピード、パワー、止める、蹴るなどといった基本的な部分で差がありました。足腰のベースに安定感があるので、プレーがぶれない。これを1年間で埋めなければいけないと感じましたね。

—ベースのところを高めていく必要があると。

楠瀬 そうです。私たちの目標は何かと言うということですよ。このカテゴリーの大会で優勝することも、もちろん重要です。だけど、本当の目的はその先にあるトップ、なでし



男子の育成年代での経験を女子の指導にも生かしている



U-17女子ワールドカップでは6試合で19得点を叩き出した

どんなサッカーでも適応できる どんな相手とも戦えるような ベースを高めることが重要です

こジャパンに入っていくような選手になることですから。それを考えた時に、どんなサッカーでも適応できる、どんな相手とも戦えるようなベースを高めることが重要です。

優勝できなかった 悔しさを生かしてほしい

—そして迎えたFIFA U-17ワールドカップでは、またしても決勝戦で朝鮮民主主義人民共和国に敗れて準優勝で終えました。

楠瀬 最後に勝ち切れなかったことに関して、「悔しい」の一言ですよね。ただ、1年前に比べると大きな進歩が見られたのも確かでした。

—ガーナとの初戦は5-0の大勝スタートでした。

楠瀬 初戦で勝つことは大きな弾みになりました。なおかつ、ガーナには5-0で勝つことはできませんでした。第2戦以降の戦いぶりを見ると、そんな大差がつくような相手ではありませんでした。だから、初戦で当たったのは私たちににとってはラッキーでしたね。

—第2戦ではパラグアイにも5-0、第3戦ではアメリカに3-2で勝利してグループステージを3連勝で突破しました。

楠瀬 16年の2月にアメリカ遠征をしたのですが、そこで普通にボール

を回すことができたんです。そこで良い感触をつかんでいたのも、アメリカに先制された時も、自分たちの実力を出せば勝てるんだと自信を持ってプレーできました。

—準々決勝ではイングランド、準決勝ではスペインに、どちらも3-0で完勝しました。

楠瀬 ボールを回すだけでなく、縦パスが通るようになって、効果的な攻撃を仕掛けることができました。ただ、どちらの試合でもフィジカル面では苦戦しましたね。体を当てて足を出しても、相手のリーチが長いのでなかなかボールを奪えない。3-0という結果に満足するのではなく、貪欲に高めていかなければいけないと感じました。

—グループステージ3試合、ノックアウトステージ2試合で19得点を挙げました。その要因は何だったのでしょうか。

楠瀬 今はどんなテンポでプレーするべきか選手たちが感じられるようになったことが大きかったですね。高い位置でボールを奪った時はショートカウンターで素早くゴールに向かっていく。今は急がない方が良くと思えばポゼッションに切り替える。それができるようになってきたのが、グループステージ最終戦のアメリカ戦ぐらいからでした。

—ただ、決勝の朝鮮民主主義人民共和国戦ではゴールネットを揺らせず、PK戦の末に敗れました。

楠瀬 1年前にアジアで敗れてから、技術的には日本が上回って、もしかしたら超えたかもしれないという感覚もありました。なおかつ、私たちは大会を通じて積極的にメンバーを入れ替えていたのですが、相手はずっと同じメンバーだったんです。疲労はたまっているはずなのに、それでも最後まで守り切られてしまった。サッカーに必要なものがたくさんある中で、執念というか、負けたくないという気持ちで、相手がちょっとだけ上回っていたのかもしれない。世界一になれなかったのは残念ですが、「優勝できなかった」という

悔しさを次のステージで生かしてもらいたいと思っています。

—ゴールデンボール賞(大会最優秀選手)には日本のMF長野風花選手(浦和レッズレディース)が選出されました。

楠瀬 技術的には同年代では認められたということだと思います。ただ、上にはたくさんのライバルがいますし、下からの突き上げもどんどん出てきます。決勝で点を取れなかったことをたまたまと思うのか、何が足りなかったのかを考えて取り組むのか。そこが重要になってくるでしょう。彼女に限らず、すべての選手に言えることです。

環境整備が必要になる

—東京都の女子サッカーについての印象を聞かせていただけますか。

楠瀬 もちろん、日テレ・ベレーザというチームがあって、その育成組織としてメニーナがありますよね。U-17女子ワールドカップのメンバーにも4人が入っています。なでしこ2部リーグにはスフィーダ世田谷FCもある。また、高校サッカーでは十文字高校が全国高校サッカー選手権で優勝して、トップチーム(十文字V.E.N.T.U.S.※チーム所在地は埼玉県新座市)もできて、今年からなでしこチャレンジリーグに参戦する。すごいシステムが一気にできた。その陰にちよっと隠れていますが、修徳高校、村田女子高校、飛鳥高校などからも良い選手が出てきていますね。

—女子サッカーが強くなっていくためには何が必要になると思いますか

楠瀬 私は「環境整備」をもっとしていく必要があると思っています。小学校まではサッカーをやっていたけど、プレーできる環境がないから続けたくても続けられないという選手も少なくありません。女子サッカーをプレーしやすいう環境を整備していくことが、な

FIFA U-17 女子ワールドカップ ヨルダン 2016

2016年9月30日~10月21日

グループリーグ

第1節	vs ガーナ	5-0
第2節	vs パラグアイ	5-0
第3節	vs アメリカ	3-2

ノックアウトステージ

準々決勝	vs イングランド	3-0
準決勝	vs スペイン	3-0
決勝	vs 朝鮮民主主義人民共和国	0-0 (PK 4-5)

PROFILE

楠瀬直木 (くすのせ・なおき)

1964年4月17日生まれ、東京都出身。帝京高校、法政大学、読売クラブ、本田技研工業サッカー部でプレー。2010年には東京ヴェルディユース監督に就任。12年よりFC町田ゼルビアでアカデミーダイレクター、強化・育成統括本部長を務める。13年には監督代行としてトップチームの指揮を執った。15年、U-16女子日本代表監督に就任。翌16年のFIFA U-17女子ワールドカップで準優勝。日本サッカー協会S級ライセンス所持。

でしこジャパンの強化にもつながっていきま。やはりベースを広げないと頂点は高くないです。最も多くの競技人口を持つ東京がその音頭をとって、モデルケースになっていくと期待しています。

—16年12月には再びU-16日本代表監督に就任することが発表されました。次の目標を教えてください。

楠瀬 まずはタイで行われるAFC U-16女子選手権に出場して、2018年のFIFA U-17女子ワールドカップの出場権獲得を目指します。今回果たせなかった世界大会の優勝という目標はありますが、まだ16、17歳ですから、その先のことを考えることが重要です。これまでの2年間の経験を活かして、自分ができることに全力で取り組んでいきたいと思っています。



新チームになって初のタイトルを獲得したFC東京U-18

久保建英2ゴール! FC東京U-18がライバルを下す 第18回東京都クラブユースサッカー U-17選手権大会

主催：東京都クラブユース連盟
日時：U-17/2017年2月11日(土) U-14・13/2017年2月12日(日)
会場：味の素フィールド西が丘
試合時間：U-17/90分、U-14/70分、U-13/60分

第18回東京都クラブユースサッカーU-17選手権大会の決勝が2017年2月11日に行われ、FC東京U-18が東京ヴェルディユースを4-1で下して優勝した。

新チームでも強さを見せる

東京都クラブユースサッカーU-17選手権の決勝が2月11日、味の素フィールド西が丘で行われ、FC東京U-18が東京ヴェルディユースを4-1で下して勝利した。

試合が動いたのは3分、FC東京U-18は東京ヴェルディユースの低い位置からのビルドアップに対して、高い位置からプレッシャーをかける。これが相手のミスを誘い、ゴール前にボールがこぼれると、これを小林幹選手がワンタッチシュート。「ヴェルディは後ろからつないでくるチームなので、追って行けばチャンスはあるんじゃないかと思っていた」(小林幹)という言葉通りのプレーでFC東京U-18が先制する。

リードされた東京ヴェルディユースはさまざま反撃に転じる。6分、8分、右サイドからゴール前に入ってきた大森渚生選手が決定機を迎えるも、これはGK大竜司選手に阻まれてゴールならず。その後も東京ヴェルディユースはショートパスとサイドアタックを織り交ぜてゴールを狙っていくが、同点にできないまま前半を折り返した。

東京ヴェルディユースに待望の同点弾が飛び出したのは56分。後半開始からピッチに立った荒木大輔選手のパスから大森選手が左足でゴールネットを揺らした。ヴェルディらしいリズ



久保選手の1点目は72分、ペナルティーエリア内でパスを受けると、強烈なシュートで左上に突き刺した



87分、ドリブルで中央を突破した久保選手はGKとの1対1を冷静にインサイドキックで流し込んで2点目を

ミカルのパスワークから1-1の同点にする。東京ヴェルディユースに生まれた反撃ムード。しかし、それを打ち消したのがFC東京の久保建英選手だった。

72分、小林幹選手からのパスをペナルティーエリア左サイドで受けると、至近距離から左足を振り抜く。GKが触れないニアサイドを狙ったシュートは豪快にゴールに突き刺さった。5分後には、中盤の中央で前を向くと、するするとドリブルで持ち上がり、GKとの1対1を落ち着いて流し込んで、2点目。

「前半に2回ビッグチャンスがあつて、彼らしくなく外していたけど、試合を通して結果を出すのは彼の能力の一つだと思う」と佐藤一樹監督をうならせた久保選手のゴールによって、FC東京は3-1とリードを広げた。

今大会は多くの選手に試合出場のチャンスを与えるために、9人までの選手交代が認められている。FC東京U-18は次々と交代選手を送り込む。90分には途中出場の品田愛斗選手が4点目を決めてダメ押し。



東京ユースは大森渚生選手が同点弾を決めたが突き放された

昨年、日本クラブユース選手権(U-18)とJユースカップ(Jリーグユース選手権大会)の2冠を達成したFC東京U-18が、新チームになっても強さを見せつけた。



FC東京U-18
監督
佐藤一樹

今はチームとして総合力を上げたいと思っているので、毎試合9人ずつ替えていました。交代枠が多いこと、こうやって西が丘の素晴らしいピッチでやらせていただけたことなど、本当にありがたい大会だなと思います。

TOPICS
全国大会における東京都チームの活躍を紹介します。

優勝・FC東京U-18

2016 JユースカップJリーグユース選手権大会

2016年10月8日〜11月19日に行われたJリーグのユースチームによる日本決定戦。決勝戦は静岡県県のヤマハスタジアムで開催され、FC東京U-18はサンフレッチェ広島ユースと対戦した。27分、45分と前半だけで2失点を喫する苦しい展開となったFC東京U-18は、50分に松岡瑠夢選手のゴールで1点差に。53分には共合陽介選手が倒されて得たPKを自ら決めて同点に追いつく。2-2で迎えた延長後半の102分、久保建英選手のアシストから荒川晃貴選手が決勝点を決めて3-2で競り勝った。FC東京U-18の優勝は7年ぶり3回目。

優勝・早稲田大学

第25回全日本大学女子サッカー選手権大会

大学女子サッカーの日本一を決める戦いが2016年12月24日から17年1月15日にかけて行われた。味の素フィールド西が丘で開催された決勝に駒を進めたのは、早稲田大学と日本女子体育大学(神奈川県)。38分に先制点を決められた早稲田大学だが、後半立ち上がりの50分、松原有沙選手が蹴ったフリーキックに三浦紗津紀選手が頭で合わせて同点に追いつく。1-1で迎えた後半アディショナルタイム、中村みづき選手が目の覚めるようなミドルシュートを突き刺す。勝負強さを見せた早稲田大学が逆転勝利で2年連続5度目の優勝を達成した。

優勝・十文字高校

第25回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

2016年12月30日〜17年1月8日にかけて兵庫県で開催された同大会。11回目の出場となった十文字高校は、準決勝で修徳高校をPK戦の末に下して初めての決勝進出を果たす。決勝の相手はお互いに勝てば初優勝となる大商学園高校(大阪)。十文字高校は村上真帆選手が61分に決めたゴールを守り切って、チーム創設22年目で日本一に輝いた。

第3位・日テレ・ベレーザ

第38回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会

2016年10月22日〜12月25日、なでしこリーグとナadeshikoリーグカップを優勝し、2年ぶりとなる皇后杯優勝で、3冠を揃っていた日テレ・ベレーザ。準決勝では昨年も準決勝で敗れたアルビレックス新潟レディースにリベンジをかけて臨んだが、後半の53分に失点を許すと、集中した守りを崩せずタイムアップ。昨年と同じ相手に敗れた準決勝敗退となった。



FC東京U-15むさしが底力を見せる!

第24回東京都クラブユースサッカーU-14選手権大会

2月11日に行われた第24回東京都クラブユースサッカーU-14選手権大会の決勝はFC東京U-15むさしがFC多摩ジュニアユースにリードされながらも土壇場で追いつき、PK戦を制して2-2(PK4-1)で優勝した。



苦しい試合を勝ち切って優勝したFC東京U-15むさし



勝利まであと一步のところまで追ったFC多摩

土壇場での同点ゴール

前半、優位に試合を運んだのは「相手をリスペクトしすぎると構えてしまう。自分たちのことをやろう」と平林清志監督に送り出されたFC多摩ジュニアユースだった。

先制点が生まれたのは30分、左サイドバックの黒木陸選手の地を這うようなグラウンダーのシュートが決まる。先手を取られたFC東京U-15むさしだったが、失点から3分後にMF小林慶太選手が押し込んで同点に追いつく。

1-1で迎えた後半、残り10分という良い時間に2点目をゲットしたのはFC多摩ジュニアユース。25分、DF岩岡達太選手がゴール前のこぼれ球を蹴り込み、2-1に。敗戦濃厚となったFC東京U-15むさしだったが、最後まであきらめてはなかった。試合終了間際の69分、右サイドを突破したMF栗原祥太選手からのグラウンダーのクロス、ニアでFW渡辺颯太選手がスルー。後ろから走り込んできたFW須藤和希選手が右足で豪快に蹴り込んだ。「うまくスルーしてくれて、フリーで打つことができました」(須藤)。

FC東京U-15むさしの北慎監督が「自分たちで問題を解決してくれたことが一番の収穫」と語ったように、2度のリードを許す苦しい展開の中でも、どうすればゴールを決められるかを考えたことが同点弾につながった。

PK戦では1人目、3人目が外したFC多摩ジュニアユースに対して、FC東京U-15むさしはキッカー4人全員が決めて4-1で勝利。前日のU-17、同じ日に優勝したU-13に続いて、U-14カテゴリーでも「FC東京」が東京の頂点に立った。



FC東京U-15むさし
FW 19
須藤 和希

先制されたことで焦りはありました。同点に追いついた後、また失点してしまっただけで、良いボールが来て決めることができませんでした。この大会は最初の目標だったので、優勝できて良かったです。

むさしvs深川の“FC東京ダービー”

第21回東京都クラブユースサッカーU-13選手権大会

2月11日の第21回東京都クラブユースサッカーU-13選手権大会は、FC東京U-15むさしとFC東京U-15深川の“FC東京対決”に。両者一步も譲らない熱戦はPK戦の末に、0-0(PK5-4)でむさしに軍配が上がった。



U-13を優勝したのはFC東京U-15むさしの1年生チーム



西が丘のピッチで意地と意地をぶつけ合った

1年生チーム同士の熱戦

キックオフ前、味の素フィールド西が丘のピッチで向かい合ったのは、青と赤のホーム用ユニフォームのFC東京U-15むさしと、白のアウト用ユニフォームのFC東京U-15深川。中学1年生チームによるU-13カテゴリーの決勝は「FC東京ダービー」となった。

ファーストチャンスはFC東京U-15深川。ロングボールからFW八木貴裕選手が抜け出し、左足でシュートを放つが惜しくも枠を外れる。10分には、八木と2トップを組んだ野澤零温選手が左サイドから中に切れ込んで打っていく。

前半は守勢に回ったFC東京U-15むさしだったが、後半になると徐々に持ち味を発揮し始める。選手同士が良い距離感を保って、しっかりとパスコースに顔を出しながら、ボールを運んでいくのがむさしのスタイルだ。

試合終盤には、お互いにビッグチャンスが訪れた。だが、FC東京U-15むさしの鴨下颯人選手、FC東京U-15深川の彼島優選手という両GKが素晴らしいセーブを見せてゴールを決めさせない。お互いにゴールが生まれないうまま0-0でタイムアップ。勝負の行方はPK戦に委ねられることになった。

PK戦でヒーローになったのは、FC東京U-15むさしのGK鴨下選手だった。「自分からステップを踏んだりして、キッカーと駆け引きをしていた」という鴨下選手は、先攻・FC東京U-15深川の1人目が放ったシュートを完璧な読みでストップ。鴨下選手が止めたアドバンテージを持ったFC東京U-15むさしは、キッカーの5人全員が決める。PK戦5-4というスコアでFC東京ダービーを制した。



FC東京U-15むさし
GK 40
鴨下 颯人

深川は身長が大きい選手や足が速い選手がいるので厳しい試合になると思っていました。前半は硬かったので、ハーフタイムに声をかけあって修正できたと思います。将来は先輩の波田野豪選手(FC東京)のようになりたい。

第95回全国高校サッカー選手権大会 本大会出場チーム紹介

関東第一高校

自らの壁を打ち破って つかんだ初出場

チーム DATA

創部：1982年 / 監督：小野貴裕 / 出場回数：初出場



全国高校サッカー選手権では初出場・初勝利を挙げた

現実を突きつけられた 総体・市立船橋戦

2016年2月18日——、新チーム初の公式戦となった2016年のT1リーグ開幕戦を終えた小野貴裕監督は「軸は何人か決まると思うんですけど、誰が出てても良いような状態を作っていないかという心配はしています」と話した。

レギュラーを固定することなく、ラージグループを練習から切磋琢磨させながら試合に起用していく。これが16年の関東第一を貫く一つの骨子となっていた。

きっかけは前年のチームにあった。15年夏の全国総体で4強まで上り詰め、絶対的な優勝候補として臨んだ選手権予選。関東第一高校は準々決勝の堀越高校戦で敗退を余儀なくされる。この試合は一部の主力選手が欠場しており、それが結果に影響したという想いが指揮官の中に残った。

守備では鈴木友也、攻撃では富山大輔と全国ベスト4を経験した2人を軸に据えながら、2月に開幕したT1リーグでは多くの選手が公式戦の舞台に立っていく。総体予選では前年の選手権全国ベスト8を知るメンバーの大半が顔を揃えた駒澤大学高校との準決勝でも、相手の圧力に押し込まれる時間が長かったが、富山の決勝ゴールで1-0と競り勝ち、2年連続での全国出場を手練り寄せた。

小野監督も「戦術的なものというよりは、選



成立との決勝で鮮やかなオーバーヘッドを決めた林健太(左)

東京都大会

2回戦	昭和第一	5-0
準々決勝	早稲田実業	3-2
準決勝	堀越	3-1
決勝	成立学園	1-0

全国大会

1回戦	野洲(滋賀)	1-0
2回戦	正智深谷(埼玉)	1-2

手が本当に逞しくなったなと感じています」とチームの勝負強さに手応えを感じていた。そんな関東第一に現実を突き付けたのが、夏の全国総体で戦った千葉の市立船橋高校だ。前年の全国総体でも準決勝で敗れた千葉の名門と今度は初戦で再会した関東第一は、チャンスを作ることすらできずに0-1で敗れた。

改めて思い知らされた全国のトップレベル。「たぶんアイツらも相当感じたものがあると思います」と試合後に語った小野監督は、ラージグループを40人近くに増やし、さらなる戦力の底上げを図っていく。この夏の時点で市立船橋という「基準」を手に入れたのは、関東第一にとって小さくない収穫だった。

ライバルを退けて 初出場をつかむ

そして迎えた全国高校サッカー選手権東京都予選。準々決勝の早稲田実業高校戦は前半だけで2点をリードされる展開に。それでも後半35分に共に途中出場の重田快と林健太の連携で1点を返すと、2分後に石島春輔が同点ゴール。延長でもやはり途中出場の小関陽生と重田が絡み、エースの富山が決勝弾を叩き込んだ。

「最悪の状態がちゃんと選手権で出るというのも面白いですね」と苦笑したのは小野監督だ

が、厳しいゲームで交替選手が結果を出したという意味でも、この一戦には16年の関東第一が持つ強さが凝縮されていたように感じた。準決勝で堀越に1年前のリベンジを果たし、迎えた決勝の相手は成立学園高校。ゲーム自体は相手に支配される中でも、最後の一球は越えさせない。そして後半5分に「思わずこっちも『それ、やったことないだろう』と思いましたが」と指揮官も笑った林のオーバーヘッドで先制した関東第一は、以降も成立学園の攻撃をきっちり跳ね返し、長年の宿願だった冬の全国出場を見事に手練り寄せた。

丁寧なパスをつなぐ、いわゆる「良いサッカー」と評されるスタイルを追求してきた関東第一だったが、ここ2年のチームは粘り強さや守備での力強さが際立つ部分も多く、そういうチームが結果を出したことは興味深い。

小野監督は「すごく良いサッカーをしたいと思っただけでやってきた時間があった、絶対勝ちたいと思ったここ何年があった、良いサッカーを選んで、勝ちにこだわっても、こだわらなくてすごく苦しいことだなと思いました」と正直な想いを吐露している。

初出場となった選手権の全国大会では、開幕戦で野洲高校(滋賀)相手に歴史的な1勝を挙げたものの、続く正智深谷高校(埼玉)戦は終盤で逆転を許し、2回戦で姿を消すことになった。ただ、今までのイメージとは異なるスタイルのチームで自らの壁を打ち破った関東第一には、これからの東京の高校サッカー界を内容と結果の両面で牽引していく存在であり続けることを期待したい。



チームに競争意識を植え付けた小野貴裕監督



2016年12月30日から2017年1月9日まで行われた「第95回全国高校サッカー選手権大会」。東京都代表として出場したのは、初出場の関東第一高校と駒澤大学高校だった。両者の全国までの道のりと、全国での戦いぶりを振り返っていく。

駒澤大学高校

ピンチを乗り越えて 2年連続全国8強に



2年連続での全国8強は東京勢として17年ぶりのこと

チーム DATA

創部：1965年／監督：大野祥司／出場回数：2年連続3回目

転機となった 公式戦3連敗

5年ぶりに全国大会へ出場した昨年度の全国高校サッカー選手権大会は飛躍の大会となった。最後は優勝した東福岡高校に敗れたものの、駒澤大学高校は8強進出という大きな成果を打ち立てた。その東福岡戦でピンチに立ったメンバーが10人残り、大きな期待を背負って立ち上がったが、新チームの始動当初から負傷者が続出。

2016年のT1リーグ開幕戦では帝京に3-0で勝利を収めるも、大野祥司監督は「選手権が終わった後はモチベーションが高かったんですけど、何日も経つとまた戻ってしまっただけの繰り返しだと思っただけ」と試合後に苦笑した。

それでも主力の欠場が相次いだ4月の関東高校サッカー大会東京都大会で東京を制すると、勢いそのままに関東大会も優勝。全国の懸かった総体予選準決勝では内容で圧倒しながらも、関東第一高校に0-1で敗れてしまう。この頃の大野監督は常に「今年のチームは、駒澤らしくないんですよ」と話すなど、なかなか手応えをつかみ切れない様子が言葉の端々から窺えた。

この関東第一戦から公式戦3連敗を喫したことで、危機感を抱いたスタッフ陣は例年ならば選手権予選の前に決めていたキャプテンを、夏休みの段階で指名する決断を下す。部員全員の投票で選ばれたのはDF高橋勇夢。彼を中心に数度の選手ミーティングを経て、夏休みが終わる頃にようやくチームに一体感が醸成され始めた。

全国制覇ならずも 2年連続全国8強

2年連続出場を懸けて臨んだ全国高校サッカー選手権東京都予選は初戦で大成高校に1-0で競り勝つと、準々決勝で専修大附属高校に5-0、準決勝で東京朝鮮高校に4-0と続けて快勝。この時期には指揮官も「今は誰を使っていいいかわからない状況で、とにかく調子の良



大野祥司監督は「全国優勝」を目標に掲げていた

い選手たちでやると。逆に春先はケガ人が多くて、いるメンバーでやらざるを得なかったのにうれし悩みではあるんですけどね」と話したほど、選手層は厚みを増した。

帝京高校との決勝も開始早々と後半アディショナルタイムにゴールを奪う盤石の試合運びで、堂々と東京連覇を達成した。いつもは慎重な大野監督も決勝後に「私も就任19年目ですけど、これだけ戦力が揃ったのは初めてなので、ぜひ一番高いところを目指して頑張りたいです」と語り、高橋キャプテンも「今の目標は全国に出ることだけではなくて全国制覇です」と言い切るなど、チームも日本一への野望を隠すことなく、全国の舞台へ帰還することとなる。

初戦の高松商業高校(香川)戦は途中出場の米田泰盛選手の決勝ゴールで1-0と辛勝。3回戦の山梨学院高校(山梨)戦は前半だけで3ゴールを奪うなど、攻撃陣が爆発し、4-0で2年連続となる準々決勝へ駒を進める。だが、その準々決勝の佐野日大高校(栃木)戦は、ボール支配こそ握るもののイージーミスが頻発。「前半から悪い流れで、うまくいかない感じがありました」(佐藤選手)。後半22分に米田選手のゴールで先制したが、すぐさま追い付かれると、アディショナルタイムにまさかの失点を喫し、そのままタイムアップ。

ほとんどの選手が涙に暮れる中、大野監督は「どこかに『いけるんじゃないかな』というのがあって、そこが敗因だったかなとおこりがあつたのかもしれない」と声を絞り出した。日本一という目標を目の前にして、駒澤大学高校の進撃はまたもベスト8でストップした。

それでも東京勢として17年ぶりに2大会連続で全国8強に輝いた成績は大いに称賛されるべきだろう。昨年度はある程度、無欲で勝ち上がったところもあった彼らが、結果を求められた今年度もきつちり東京を勝ち抜き、全国でも存在感を示したという事実が色褪せることはない。

キャプテンの高橋選手は「駒澤がいつか全国優勝して、カップを掲げる姿を見られれば、自分たちが3年間やってきて後輩に教えてきたことが生きたのかなと思えて、この悔しさも晴れると思う」と語った。駒澤大学高校はこの1年間で、確かな伝統の礎を築いた。

東京都大会

2回戦	大成	1-0
準々決勝	専修大附属	5-0
準決勝	東京朝鮮	4-0
決勝	帝京	2-0

全国大会

2回戦	高松商業(香川)	1-0
3回戦	山梨学院(山梨)	4-0
準々決勝	佐野日大(栃木)	1-2



高橋勇夢はDFながら東京都予選で4試合連続ゴール

府中新町 FC が PK 戦を制する! 第40回全日本少年サッカー大会 東京都中央大会



府中新町FCは府中市立新町小学校グラウンドを拠点にする少年サッカークラブ。自立、判断力、戦う気持ち、向上心の4つの指導方針を念頭に活動している



第40回全日本少年サッカー大会東京都中央大会の決勝戦が2016年11月23日に行なわれ、府中新町FCがシルクロードSCをPK戦の末に下し、優勝を決めた。東京都サッカー協会少年サッカー連盟の高山清委員長と今大会の意義を考える。

主催：公益財団法人日本サッカー協会／公益財団法人日本体育協会／
日本スポーツ少年団／読売新聞社
日時：2016年11月23日（水） 会場：味の素スタジアム西競技場
試合時間：40分

両者譲らず PK戦決着に

2016年11月23日、味の素スタジアム西競技場にて、第40回全日本少年サッカー大会東京都中央大会の決勝戦が行なわれた。東京都の頂点に立ったのは、大会を通して戦う姿勢を貫いた府中新町FC。シルクロードSCとの決勝戦は文字通りの激闘となった。

7分、右サイドから相手DFの股を抜きペナルティーエリアに侵入しようとした中村健太選手が倒され、フリーキックを獲得。これを安達一貴選手が直接狙うもボールは壁に当たり、惜しくもゴール脇に逸れてしまう。続く9分には、日隠ナシユ大士選手からのスルーパスに反応した中村健太選手が相手DFラインの裏に飛び出しキーパーと一対一に。しかし、これはシルクロードのGK小川真輝選手が見事な反応でストップ。さらに18分には永井優斗選手がペナルティーエリアの外から左足を一閃。強烈な弾道だったが、またしてもGKが立ち塞がった。防戦一方の展開となったシルクロードSCだったが、小川選手を中心にゴールを死守し前半を折り返した。

府中新町の葛谷智員監督が「ハーフタイムに選手たちに伝えたのは、サッカーの原点だった。「ここまで来たら思い通りになんていかない。」



堅守を武器に勝ち上がってきたシルクロードSC。府中新町FCの運動量が減った後半15分過ぎからは攻勢に転じる場面も見られたが、全国にはあと一步届かなかった

大会結果

優勝	府中新町FC
準優勝	シルクロードサッカークラブ
第3位	三菱養和サッカークラブ調布ジュニア
第4位	横河武蔵野フットボールクラブジュニア
努力賞	シルクロードサッカークラブ
グッドマナー賞	三菱養和サッカークラブ調布ジュニア

目の前の勝負に勝つこと、相手より先にボールに触ること、味方をフォローすることを最後までやり続けよう」

後半はシルクロードSCが西山琉人選手を中心に攻め始めるなど一進一退の展開になったが、どちらもゴールネットを揺らすことはできずスコアレスドロー。最終的にはPK戦を3-2で制した府中新町FCが全国への切符を手にした。

リーグ戦とトーナメントの両立が サッカー選手の土台をつくる

東京都中央大会は、トップリーグ30チーム及び16ブロックの予選を勝ち上がった64チーム、計94チームが参加し、約1ヶ月にわたって開催された。今大会を見守った東京都サッカー協会少年サッカー連盟の高山清委員長は、リーグ戦を取り入れた予選の意義をこう語る。

「地域でリーグ戦を行なうメリットは、結果に懸することなく試合中にチャレンジできる環境を用意してあげられることです。リーグ戦を行なうことで、各チームの指導者がMTMを取り入れた育成ができます」

MTMは「マッチ・トレーニング・マッチ」の略。試合でできなかったことをトレーニングに落とし込み、次の試合ではトレーニングしたことが発揮できているか、また新たにトレーニング



府中新町 FC
FW 32
中村健太

一人ひとりがどんどんプレッシャーをかけて、味方のカバーをみんなですべて、失点を防いだり、その後の攻撃につなげることができたと思います。全国にはどんなチームがでるかかわからないけど、思い切りやりたいです。



「リーグ戦とトーナメントの両方をバランスよく経験してもらいたい」（東京都サッカー協会少年サッカー連盟 高山清委員長）

グに落とし込むべきことは何かを探る指導方法のことだ。高山委員長はこう続ける。「MTMでは優先順位をつけることが大切です。あとで身に付けられることと、今すぐ身に付けるべきものを見定めてトレーニングに落とし込んでいきます」

さらに高山委員長はトーナメントの重要性にも言及する。「一発勝負の厳しさを経験させることも大事です。リーグ戦とトーナメントの両方をバランスよく経験してもらいたい」

また高山委員長は今大会を通し、一部の保護者に対して、お子さんに声を掛けすぎていると感じたと言った。「保護者の方々には選手の考えを大事に育ててほしい。ある程度サポートしなければいけないけれど、できるだけ指示を少なく、自主的判断を促す場面を少しずつ増やしてあげてほしいと思います」

サッカーを通して子どもたちが成長できる環境づくりのために、大会に関わるすべての大人たちの協力が不可欠なのではないだろうか。

芝生で楽しむ女性の大会

大人も子供もみんなが笑顔に

JFA レディース／ガールズサッカーフェスティバル 2016

2月12日(日)、味の素スタジアム西競技場で「JFA レディース／ガールズサッカーフェスティバル 2016」が開催された。都内に在住、在勤、在学している18歳以上の女性と小学生が芝生で仲間とともにボールを蹴る楽しさに触れ、イベントは終始、笑顔であふれていた。

主催：(公財)東京都サッカー協会

主管：東京都少年サッカー連盟(16ブロック)、東京都女子サッカー連盟、JFA レディースサッカーフェスティバル東京実施委員会

後援：(公財)日本サッカー協会

日時：2017年2月12日(日)

会場：味の素スタジアム西競技場

参加資格：原則として、東京都に在住・在勤で、18歳以上の女性(レディース)、
原則として、東京都に在住・在学で、小学生の女子(ガールズ)

継続することで 輪を広げる

「JFA レディース／ガールズサッカーフェスティバル」はレディース(18歳以上)とガールズ(小学生)の合同開催として今回初めて募集し、実施した。レディースは12チームの計72名、ガールズは41チーム、個人参加25名の計289名が参加し、10面の芝生ピッチで、総計361名の女性プレーヤーが仲間たちとともにサッカーを楽しんだ。

東京都女子サッカー連盟の桑津昇太郎委員長は、「サッカーを女性にもっと身近に感じてもらい、サッカーファミリーを広めていきたい」と話す。現在、日本サッカー協会に登録しているサッカー選手数は約95万人で、女性は約2万7000人(2015年度)。女性の競技人口は5万人程度とされており、「30年までには20万人に増やしたい」とビジョンを描く。そしてもう一つ、サッカーを通して、「20年の東京五輪を前にもう一度、スポーツ文化を醸成したい」という思いがある。「例えば母親がサッカーを楽しんで、今度は子供にもやらせたいというようにサッカーファミリーが増える期待もできる。それに練習や試合後には家族でどんどんコミュニケーションが図れるし、絆も深まる。同じように、地域で支え合う構造も築いていける」と、サッカーが担える役割は少なくないという。

ボールから生まれる たぐさんの笑顔

そんな主催者側の思いは、参加者にも自然と伝わっているようだった。

「ママさんチーム」として足立区で週1回程度の活動を続けるコメールペールは、今大会の常連でもある。秋本とし子さんは、「こうやってみんなでボールを蹴る機会はすごく貴重。女子には、私たちのような年代がプレーするカテゴリーがないので、こういうフェス



総勢361名の女性プレーヤーが芝生のピッチでボールを追いかけた

ティバルはうれし」と話す。

小学生の子供を持つ母親を中心に結成されたチームは今や、その子供が成人し、すでに孫がいるメンバーもいるという。「小学生になる孫に、もう負けちゃいますけど」と笑いながら話す彼女たちは、ボールがある生活を、当たり前のように続けている。

3年生から5年生の6人で初めて参加した松林サッカークラブの子供たちは、「普段はやらない人とできるのが楽しい!」、「今日はシュートを決めた!」と嬉しそうに話していた。「ゴールはまだだけアシストはしたよ」、「サッカーは楽しいから、大きくなっても続けたい!」と目を輝かせる。男子と交ざってプレーする普段とは異なる環境を楽しんでいた。

彼女たちの多くは、先にサッカーを始めた兄の影響で、連れ添われていくうちに興味を

公益財団法人 東京都サッカー協会 理事
東京都女子サッカー連盟 委員長
桑津昇太郎

サッカーを女性にもっと 身近に感じてもらいたい

サッカーを女性にもっと身近に感じてもらいサッカーファミリーを広めていきたいですから、日頃はボールを蹴っていないような人のきっかけとなってもらえたらいいですね。サッカーはコミュニケーションツールとしての役割も大きく、家族、地域、仲間などの絆を深めていくことができます。海外に行っても同じように、ボールが一つあれば多様な国の人々との交流を楽しめますから、女の子もどんどんサッカーをやって、海外に行ったりして、視野を広げて育ててほしいです。

持つことが多いという。大会に引率してきた親御さんは、「子供の意思で楽しんでいるし、この先どうするかも子供に任せる。でも、男の子に負けたくないくらい精神的にも強くなれるし、女子がサッカーをするのもすごくいいと思う」と話した。

最初から最後まで、本場に多くの笑顔であふれた今大会。桑津委員長が「継続していくことが大事」と話すように、こうした機会が変わらずに続いていくことで、サッカーファミリーの輪が広がっていくに違いない。



「連盟ニュース」では各連盟の大会結果・取り組みなどを4連盟ずつ紹介します。次号（17年10月発行）では、自治体連盟・地区連盟・高体連・クラブユース連盟を掲載予定です。

2016年度の社会人連盟所属のチームは、各種大会で健闘はしたものの目標とする結果を得ることができなかった。

- ①東京都サッカートーナメントには、東京武蔵野シティFC、日立ビルシステムが出場し学生代表の早稲田大学、明治学院大学と対戦したが両チームともにPK戦の末、敗退し天皇杯への出場は叶わなかった。
- ②全国クラブチーム選手権では、関東大会（山梨県開催）にFC INAHOが出場したが1回戦で敗退し、全国大会への出場は叶わなかった。
- ③国民体育大会では、関東予選（山梨県開催）の初戦で地元山梨県と対戦したが力及ばず悔しい敗戦となり、本大会への出場はならなかった。
- ④全国社会人サッカー大会では、関東予選に9チームが出場し東京23FCが全国大会出場を果たした。全国大会では、順当に勝ち上がれるものと思われていたが2回戦で敗戦となり悔やまれる結果となってしまった。
- ⑤関東社会人サッカー大会は、関東社会人リーグ入りをかけて神奈川県で行われ、東京から東京蹴球団、Criacao、三菱養和SCの3チームが出場したが、それぞれ2回戦、準決勝、初戦敗退という結果となり、決勝進出できず関東リーグ昇格はならなかった。
- ⑥全国地域チャンピオンズリーグには、今年度、関東リーグを制覇した東京23FCが出場した。一次ラウンドでの1位3チームと、2位最上位1チームの4チームが出場する決勝ラウンド進出をかけた一次ラウンド（山梨県北麓）に臨んだが、持ち前の勝負強さを発揮することが出来ず一次ラウンド2位の2番目となり、上位4チームに入ることができず、決勝ラウンド進出を目前にして涙を飲んだ。

今年度は「決めるべき時に得点できる勝負強さ」の必要性を特に感じた1年となった。来年度は、社会人連盟所属チームに「勝負強さ」「得点能力の向上」の大切さを啓蒙しながら、各大会で最良の結果を出していきたいと考えている。

東京都社会人サッカー連盟

決めるべき時に 決めることの必要性

運営副委員長
田中 浩



各種大会で目標とする結果を得ることができなかったが、来年度の巻き返しを誓う

はじめに、東京都大学サッカーリーグ戦及び東京都大学サッカー連盟の活動に日頃からご協力を頂いている全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

今年度、東京都大学サッカーリーグは50回目を迎えることとなります。恐らくは私たち現役学生のお父様、お母様方がお生まれになった頃から、東京都の大学サッカーの歴史が絶えず紡がれてきたこととなります。

こうしたキリの良い数字を見ると半ば反射的に「記念すべき」などと形容したくなるものですが、ある意味では“こじつけ”でもあります。一方で、“こじつけ”がしばしば“動機づけ”や“意味づけ”として機能してくれることもまた事実です。

そこで東京都大学サッカー連盟は今年度、「50周年記念事業」を行います。当連盟を通してサッカーに関わることの価値を認識し発信することや、運営主体である学連の運営能力の向上に取り組んで参ります。東京都の大学サッカーの未来を考えるきっかけにもしたいと考えております。

そして、大学サッカーそのものもまた、“こじつけ”と“意味づけ”の集合体であります。

「今年こそは」、「この試合こそは」、「なぜ大学サッカーに関わるのか?」。そうした、各大学・選手・スタッフ一人ひとりのこうした思いが重なり合い、ぶつかり合っているのです。

もちろん全てがこのリーグ戦の結果に昇華されるわけではないでしょう。それでも、競技スポーツである以上、リーグ戦の勝利は最大の価値を持ち続けることとなります。毎週末のリーグ戦との向き合い方は、大学サッカーに関わる全ての人にとって、最も大きなテーマであり続けるのではないのでしょうか。

今年度からは、1・2部の全大学から学生幹事が選出され、弊連盟の運営に携わって頂くこととなります。ご協力を賜り、本当に感謝しております。

運営主体が人数面・能力面で拡張して総力を高めること、さらにより多くの大学からの多角的な視野を取り込めるようになることで、効果を還元できるよう努めて参ります。

学生幹事一同、皆様のお力添えへの感謝の気持ちを忘れずに、一層の努力を重ねて参ります。今年度もどうぞ、よろしくお願ひ致します。

東京都大学サッカー連盟

全大学から学生幹事を選出して総力を高める

幹事長
張 暎洙



今年度で50回目を迎える東京都大学サッカーリーグ。50周年記念行事も開催予定



東京都シニアサッカー連盟では、1月9日に新春企画として「2017年東京シニアチャンピオンシップ」を行いました。

各カテゴリー（O-40、50、60）で前年度のリーグチャンピオンと全国シニア東京都予選の優勝チーム（O-60は春期大会優勝チーム）による“チャンピオンシップ”です。全カテゴリーで優勝チーム同士による拮抗した試合が繰り広げられました。新シーズンのリーグおよび全国シニア大会東京都予選大会が2月からスタートするので、各チームに新加入選手との融合や、連携を確認する様子が見られました。

また、同日には新年度から1部に昇格するチームと1部チームによる交流戦も行われました。今回が初めての試みとなりましたが、昇格チームにとっては1部リーグの雰囲気を感じたり、他チームと交流をしたりする貴重な機会になったと思います。

お正月の恒例行事となっている「シニア連盟初蹴り会」は1月3、4日に開催しました。参加人数はO-40・50で各40人、O-60で60人、O-70で25人の合計165人。シニアのサッカー熱の高まりを改めて感じるようになりました。

また、5年ほど前よりO-60以上を対象とした練習会「水曜練習会」を開催しています。駒沢（第二球技場or補助球技場）、赤羽スポーツの森で、シニア選手たちのプレー機会を創出することを目的に行ったのですが、毎回50～60人が参加するなど予想を上回る反応を得られました。できるだけたくさんボールに触れるように9人制にしたりするなど、毎回様々な工夫を行っています。

新年度も「生涯スポーツとしてのサッカーを応援する」をモットーに、活動に取り組んでいきたいと思っています。

2017第1回新春企画大会（チャンピオンシップ）			
O-40の部	Tドリームス 全国シニア東京都予選（O-40）1位	1-1	東京北区シニアFC・40 TCL-1 2位
O-50の部	東京ベイFC O-50 全国シニア東京都予選（O-50）1位	1-0	セレクション・トキオ・FC TSL-1 1位
O-60の部	Lazos2011 春期（O-60）1位	1-1	セレクション・トキオ・ロホ・FC CWL-1 1位

東京都シニアサッカー連盟

生涯スポーツとしてのサッカーを応援する

副委員長
深澤 光賢



Tドリームス (O-40の部)



東京北区シニアFC・40 (O-40の部)

東京都専門学校サッカー連盟では、年間事業の一つとして「海外親善交流試合遠征」を毎年実施しております。

遠征の目的は、スポーツを通じて海外での交流と親睦を図り、さらにはサッカー文化、地域文化に触れ、人間形成やサッカー技術向上を目的としています。

今年度は11月11日から14日にかけて、当連盟加盟校から選抜された18名の選手が韓国で大学や高校と2試合の親善試合を行いました。

試合結果はヨジュ大学（利川）に2-3、サンムン高校（ソウル）に8-1の1勝1敗となりました。

日本国内でも報道があったように、ソウル市内を中心に韓国政府内での問題もありながら、参加した選手たちは韓国情勢を理解しつつ、相手チームや選手に敬意を持って、フェアプレーに徹してプレーしていたことが印象的でした。

今回初めて海外を経験する選手も多く、日本語とは異なる言葉はもちろんのこと、他にも韓国の食や文化など日本との違いを体験できたことはとても意義のあるものと感じております。

さらには、サッカーを通じて選手間での絆や協調性が積極的になり、普段の所属チームとは違う帰属意識が芽生えたことが、選抜チーム遠征としての大きな成果と感じています。

短期間ながら異国での生活経験において、不安や好奇心を持った生活は遠征の趣旨でもあるキャリア教育（人間形成）の観点からも貴重な時間になったのではないかと考えています。

当連盟として今後もこのような経験の場を学生たちに提供することが必要と感じております。

東京都専門学校サッカー連盟

サッカーを通じたキャリア教育

副会長
佐々木 善



年間行事の「海外親善交流試合遠征」では、スポーツを通じて海外での交流と親睦を図った

2016海外親善交流試合in韓国

2016年11月11日～14日（利川・ソウル）

11月12日 東京選抜チーム 2 - 3 ヨジュ大学（利川）

11月13日 東京選抜チーム 8 - 1 サンムン高校（ソウル）

東京都専門学校選抜選手18名で遠征

「日本女子フットサルリーグ 2016 プレ大会」に 東京府中アスレティックFCプリメイラが参戦



3年後の日本リーグ優勝を目指す

Fリーグに所属する東京府中アスレティックFCの女子カテゴリーであるプリメイラは、2016年に創設された「日本女子フットサルリーグ2016プレ大会」に出場。府中の誇りを胸に戦う彼女たちは、その舞台で何を感じ、そしてこの先、何を目指していくのか。石森由紀総監督に聞いた。

**格上に挑んだ
プレ大会**

東京府中アスレティックFCプリメイラは公式リーグに先駆けて実施された「日本女子フットサルリーグ2016プレ大会」に出場しました。第1回目は6チームが参加し、1回戦総当たりのリーグ戦の末に5位に終わりました。

私たちは東京府中アスレティックFC1部に所属していますが、他の5チームは都道府県リーグの上位に相当する地域リーグに所属していますから、「格上に挑む」という気持ちがありました。

準備期間が短く、メンバーも少ない現状では、最良の成績を残したと思っています。Fリーグ（日本フットサルリーグ）に所属する男子トップチームもライバル同士であるバルドラー浦安ラス・ボニータス戦は、相手を分析し、自分たちの武器を踏まえて、選手は最高のプレーを体現し、過去一度も勝利したことのない相手に勝利し、クラブを挙げて喜びました。

ただし、福井丸岡RUCKやarcoriris KOBEといった上位陣には大差で敗れ、大きな差を痛感しました。そんな中でも選手たちは、悔しさ以上に「楽しかった」と次への意欲を口にしていましたので、チャレンジした意味があったと本心に思っています。

順位表

順位	クラブ名	勝	分	負	勝点
1	福井丸岡RUCK	3	2	0	11
2	arco-iris KOBE	3	1	1	10
3	SAICOLO	3	1	1	10
4	バルドラー浦安ラス・ボニータス	2	0	3	6
5	東京府中アスレティックFCプリメイラ	2	0	3	6
6	Futsal Clube UNIAO Ladies	0	0	5	0

この経験を糧に次年度以降は、新加入選手や、2軍に相当するアスピランチからの昇格選手を加え、安定感が増していくはず。クラブは3カ年計画を打ち出して、3年後に日本リーグで優勝して、全日本女子フットサル選手権でも決勝を戦えるようなチームづくりを目指して整備していきます。プレ大会を戦った手応えとしても、日本のトップは十分、狙っていると思っています。

子供たちがプレーする環境をつくりたい

府中アスレティックFCは「府中市民の誇りとなる総合地域スポーツクラブ」として2000年に設立し、当時より女子カテゴリーを創設、育成年代の整備を行ってきました。府中市は「フットサルの街」と呼ばれ、31年前から府中市民大会が、27年前から市リーグが開催され、大人から子供まで本場に多くのプレーヤーがフットサルを楽しんでいます。

育成年代の女子サッカー選手には、近郊の強豪クラブに行けなかったり、チームを退団したりした後にプレーする環境がないという現状があります。私たちの女子カテゴリーが、そうした選手たちの受け皿となって、フットサルで決断力と技術を磨き、海外のようにサッカーとフットサルをプレーし、自分に合ったほうを選ぶ、そういった形で地域の選手たちを支えよう

総監督……石森 由紀
監督……森 佳祐

Pos.	No.	名前	生年月日	出身
FP	3	縄田 三佳	1994.03.10	東京都
FP	5	七五三掛 麻耶	1994.10.17	東京都
FP	8	小室 瑞紀	1993.06.18	東京都
FP	10	船附 ひな子	1997.03.09	東京都
GK	12	阿部 美咲	1991.12.25	埼玉県
FP	14	長岐 真奈	1996.10.31	東京都
FP	16	鎔谷 佳恵	1996.09.28	東京都
FP	17	島崎 美和	1990.06.08	東京都
FP	19	黒田 桂	1991.07.03	東京都
FP	21	桜庭 里紗	1996.05.05	東京都
FP	23	木村 瑛里香	1994.09.07	東京都
FP	25	千田 日向子	1996.09.02	東京都

という考えがあります。

また、女性のフットサルに対する考え方は様々であり、男子より明確にプロをイメージできるものではないかもしれませんが、母親になってからフットサルを始めるという方も多いため、競技として高みを目指す選手も、エンジョイプレーヤーも、みんながスポーツを通じて生活が充実するという環境をつくっていかないと考えています。

今回の日本女子フットサルリーグへの参戦も、「府中市民の誇りとなる総合地域スポーツクラブ」としては必然と言えます。これからも、府中そして東京の誇りとなるチームであることを目指し、活動していきます。

PROFILE



石森 由紀
(いしもり・ゆき)

1971年9月26日生まれ、東京都出身。
元フットサル女子日本代表コーチ。現在は、NPO法人府中アスレティックフットボールクラブ理事、東京都フットサル連盟事務局長を兼任し、東京都女子フットサル選抜チームの監督も務める。東京府中アスレティックFCプリメイラ総監督としてクラブの女子カテゴリーを統括し、新シーズンからは女子の2軍に相当するアスピランチ監督として指揮を執る。



2000年のクラブ設立当初から女子カテゴリーのチームをつくり、活動してきた

朝日新聞紙面で 「しつもん! ドラえもん」 好評連載中です!

朝日新聞
「しつもん! ドラえもん」だけの
オリジナルイラストが続々と登場!
これからもお楽しみに

しつもん! ドラえもん 2396 にほんびじゅつ編



漆で文様を描き、その上に金や銀などの金属粉や色のついた粉で模様を描く技法は何か?

©Fujiko-Pro

新聞をひらいてこたえをさがしにいこう

新聞を開いて親子で学べる /

「しつもん! ドラえもん」

朝日新聞の人気企画「しつもん! ドラえもん」は
毎朝1面に親子で楽しめるクイズ企画を出しています。
答えは朝刊の別のページに。「五輪」「乗り物」などの豆
知識や、「戦国時代」「選挙の仕組み」といった学校の勉
強につながるテーマも出題されています。

「もっと教えて! ドラえもん」で復習も

「もっと教えて! ドラえもん」は、毎月第1日曜
日に掲載。「しつもん! ドラえもん」で取り上
げたテーマを改めて勉強できるページとし
て人気です!

©Fujiko-Pro



イラスト

時絵

奈長時代に始まり、平安時代
に発達した。お経や碗を入れる
箱などに用いられた。貝殻の光
り輝く部分をはめ込んだ螺鈿を
施したのもあるよ。

2396

同じ日の別のページに
「こたえ」が隠れています。
親子で探してみましょう!

家庭学習に

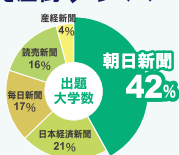
しつもん! ドラえもん
朝日新聞紙面で
好評連載中

子どもたちに大人気
「しつもん! ドラえもん」
いろいろなジャンルから毎日1箇所づつ、
1面に「しつもん」が載り、「こたえ」
はどこかのページにあるよ。また、
毎月第1日曜日にはより詳しく内容を説
り下げた「もっと教えて! ドラえもん」
も載っているよ。

大学受験に

朝日新聞の
記事からの
出題数

2016年度大学入試
他紙を圧倒 ナンバー1



朝日新聞と他の全国紙の2016年度出題実績
* 大学通信調べ…新聞とウェブサイトからの
出題を集計(2016年5月31日現在)

就職活動に

就職フェア By 朝日新聞

内定者
インタビュー

仕事力 あの人と
働くを考えるコラム こんな話



藤子・F・不二雄
FUJIKO・FUJIO MUSEUM

B&D

SOCCER PRO SHOP

超専門店 超宣言

B&Dは競技者のパフォーマンスを上げることを誓います。

すべてはスポーツマンのために。
B&Dでは、スポーツ用品専門店として
競技者のパフォーマンスを向上させるため
プロフェッショナルなサービスを提供しています。

カスタムバランス

専用機器で足の状態を測定、わずか10分で
あなただけのカスタムメイドインソールを作成!
足本来の機能を促すと共に、正しい身体の
バランスへ導きます!

今なら

- ①インソールがご自分に合わなければその場で
キャンセルOK!
- ②ご購入後ご満足頂けない場合、ご購入から
30日間返品・返金保証!



**都内カスタムバランス
設置店舗** 町田店、立川店、調布店、
上野店、吉祥寺店

スポーツシューフィッター

一般社団法人「日本フットウェア技術協会」が認定する「シューズ」と「足」と
「インソール」のスペシャリストが在籍。お客様に最適な1足を選びます。



**都内スポーツシューフィッター
在籍店舗** 町田店、立川店、
調布店、上野店

レーザー加工シューズ マーキング

レーザー加工機でお買い上げのシューズ
(革製品)にお好きな文字を加工します!
(有料) 世界で1足のオリジナルシューズ
をつくらう!



**レーザー加工機
設置店舗** 町田店、立川店

無料シューズマーキング

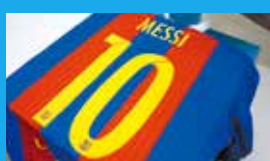
お買い上げのシューズ(革製品)にお好き
な番号またはアルファベットを2文字圧着
加工します! 世界で1足のオリジナル
シューズをつくらう!



**都内シューズマーキング
実施店舗** 町田店、立川店、
八王子店、吉祥寺店、浅草ROX 3G店

ウェアマーキング

チームユニフォームやレプリカシャツに
好きなマークを圧着加工します!(有料)



**都内ウェアマーキング
実施店舗** 町田店、立川店、八王子店、調布店、上野店、
吉祥寺店、錦糸町店、ひばりヶ丘店、浅草ROX 3G店

ボールマーキング

お買い上げのボールにお好きな番号や文字を
圧着加工します!(有料) 世界でひとつだけの
オリジナルボールをつくらう!



**都内ボールマーキング
実施店舗** 町田店、立川店、八王子店、調布店、上野店、吉祥寺店、
錦糸町店、ひばりヶ丘店、浅草ROX 3G店

*マーキング加工は、状況によりお時間をいただく場合がございます。

チームユニフォームは
お得なB&Dで!

チームユニフォーム特別割引実施中!

5セット以上・32,400円(税込)以上のご注文で

メーカー希望小売価格より**20%OFF!**

お見積り無料!

デザイン・ご予算等各店舗まで
お気軽にご相談下さい。

*キャンペーン商品等、一部対象外品が
ございます。

*写真はイメージです。

お得な情報・クーポンなど随時配信!



B&Dオンラインショッピング



合計金額5,400円(税込)以上で **送料無料!**

YAHOO! JAPAN 楽天

PC・スマホ ▶ <http://www.bnd.co.jp> 携帯 ▶ <http://moweb.jp/bnd-mobile>

*上記雑誌掲載商品で一部取扱いのない商品がございます。*売切れの際はご容赦ください。

B&Dは関東圏に31店舗 東京都内にも9店舗!

お近くのB&Dは当社ホームページより ▶ <http://www.bnd.co.jp>
ご確認ください

クーポン画面にアクセスしてみんなで使おう!

東京都サッカー協会広報誌限定 **特別クーポン**



26533 80000 00000 3



左のQRコードを読み取ったクーポン画面、または
こちらのクーポンをご精算時にレジにてご提示下さい。

サッカーシューズ税込10,000円以上 **1,000円値引券**
お買い上げで使える

URL : http://www.bnd.co.jp/campaign/201703_TOKYO_FA.html
上尾店・オンラインショップを除くB&D各店舗でご利用できます。

有効期限: 2017年9月30日(土)まで

*他の値引券(企画・割引券)と併用できない場合がございます。*有効期限が過ぎている場合はご利用できません。*本券はご精算前にレジに提示してください。(コピー不可) *本券1枚につき1回のみのご利用となります。*本券の盗難・紛失に関して当社はその責任を負いません。